

## 令和4年度第1回四日市市総合教育会議

令和4年8月5日

午前9時00分開会

### 1 開会

○荒木政策推進部長 おはようございます。

定刻となりましたので、令和4年度第1回総合教育会議を開催させていただきます。

司会は、私、政策推進部長の荒木が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたしますします。

本日の議題でございますが、事項書でございますように、まず1点目に新図書館整備に向けた検討・協議について、2点目に幼児教育の充実と施設再編についてということでご案内してございます。全体で10時30分を目途に終了の予定でございます。どうぞよろしくお願いいたしますします。

なお、本会議は公開となっておりますので、傍聴や、記者による取材等がある旨ご了承いただきたいと存じます。

それでは、事項書に従いまして進めさせていただきます。

### 2 新図書館の整備に向けた検討・協議について

○荒木政策推進部長 まず、1項目でございますが、新図書館整備に向けた検討・協議についてでございます。

新図書館の整備に向けましては、昨年度にも総合教育会議で皆様からのご意見をいただいているところでございます。本日は、新図書館整備に合わせた自動車文庫の継続や駐車場整備に向けた考え方をご報告させていただきまして、皆様からのご意見をいただければと思います。

まずは事務局より資料の説明をお願いいたします。

○矢澤政策推進課課長 おはようございます。政策推進課長の矢澤と申します。よろしくお願いたします。

早速、お手元の、右肩に「資料1」とあります新図書館整備に向けた検討・協議というところでご説明させていただきます。

先ほど部長からありました自動車文庫の継続、駐車場整備の前に、土地を持っておりま  
す近鉄グループさんとの検討の状況をご報告させていただきます。

まず、近鉄グループさんが計画しておりますスターアイランドの跡地の建物に新図書館  
を組み入れることにつきまして、今、基本計画の協議を進めてきております。こちらから  
次のステップである基本設計に進めていくため、以下の青色で囲った部分が近鉄と市で合  
意できましたので、そちらをご説明させていただきます。

確認事項になります。

目的は、次のステップである基本設計を実施するための協議を進めることを目的として  
おります。

新図書館等に係る建物計画。

まず、コンセプトでございます。1つ目は、ICTに対応し、全世代を対象とした滞在  
型図書館。2つ目に、ICTを活用し電子書籍などが導入されたスマート図書館。3つ目  
が、図書の貸し借りの場だけでなく、本を楽しみ、生涯学習もできるゆとりある空間を持  
ち、また、新たな情報や人に出会え、交流できる図書館。4つ目が、ワークショップスペ  
ースなどを持つ交流施設。

続いて、駐車場・駐輪場です。本計画建物内には設置せず、スターアイランド跡地の計  
画地周辺の駐車場等への隔地化を検討してまいります。ただし、思いやり駐車場につきま  
しては本計画建物内に設置する予定です。台数は継続検討でございます。

基本設計の実施です。

新図書館に係る設計は市というところで、建物全体の基本設計は近鉄不動産。費用負担  
は近鉄及び市というところで、その負担額については今後検討してまいります。

権利設定につきましては、土地については定期借地で、存続期間70年でございます。

目標スケジュールは、令和4年秋に基本設計に着手してまいります。

右側の、現在協議中の新図書館の概要について説明いたします。

今、市が近鉄グループにお願いをし、市が想定しているフロア構成は以下のとおりで  
ございます。この辺が整い次第、新たに確認事項を書面で交わした上で、新図書館に係る予  
算（基本設計、内装、新図書館の具体的な機能、運営、サービス）といったものを検討す  
るための費用を補正予算として議会に提案してまいります。

下が、今イメージしているフロア構成でございます。

1～2階が民間施設で、3階から8階が新図書館の部分になってまいります。図書館部

分が約1万平米で、一般成人のエリア、子どもと子育てのエリア、ティーンズのエリア、資料情報のエリア、講座、点字・録音エリア、ボランティアと管理エリアと、併せて交流施設についても、民間施設とのコラボレーションも考えながら設定してまいりたいと思っております。

右側に、本当に超概算ですが、近隣の東海圏のここ20年ぐらいにできた図書館からはじき出した概算工事費が約75億円ということになってまいります。

次のページをよろしく願いいたします。

今後の進め方ですが、市と近鉄グループ双方が、先ほど申しあげましたフロア図であったり、基本設計のお金の負担の仕方などの合意に至れば、さらに具体的な検討に進んでいくということで、今現在、近鉄グループとの交渉を我々政策推進課が中心にやっておりますが、新たにプロジェクトチームというのを設置して進めていきたいと思っております。そこには、我々政策推進部と図書館を持っております教育委員会、中央通りの事業を行っております都市整備部といったところを想定しております。施設の管理・運営に関する協議・調整、また、図書館の内装の基本設計であったり、近鉄の実施する建物全体の設計とは別にこういったものやっていききたいというところ。あわせて、後ほど説明いたします自動車文庫のあり方、現図書館の運営サービスのあり方等の有効活用についても検討を行ってまいります。

下に、想定される今後の進め方です。

今現在、一番上の基本計画の策定中というところで、確認事項についての合意は、先ほど申しあげましたコンセプト等を8月中旬には市と近鉄グループで調印してまいります。その後、フロア構成等、設計のお金の負担の仕方が決まれば、新たに確認事項を上げ、補正予算を上げていくところになります。その後、実施設計、工事着手、供用というざっとした流れになりますが、中央通りの再編事業と併せて、令和9年度中の完成を目途としております。

このように、基本設計、実施設計、工事、それぞれの段階で市と近鉄グループで合意事項を書面で交わした上で次のステップに進んでいきたいと思っております。

次、右側をお願いいたします。

図書館機能の検討でございます。

もともと、平成30年の基本計画では市役所の東側広場を新図書館の整備場所として想定しておりました。今回、スターアイランド跡地に変わったということで、以下の自動車

文庫であったり駐車場のあり方について改めて整理いたしました。

1つ目の自動車文庫ですが、今は2台体制で、下の青四角のみなど号とかもめ号で市内91か所を巡回して、本館への来館が難しい方に貸出サービスを実施しております。一方で、この車両が下記に示すような全長7mもある大型車でありますので、こちらの車両動線とか専用の駐車スペースも大きくなるというところがあります。150平米くらいの図書の積み替え専用スペースも要るということです。スターアイランド跡地での新図書館においてはこの機能は確保せずに、今の図書館に確保してまいりたいと考えております。

下の米印、現図書館の継続利用です。

新図書館との役割分担、既存ストックの有効活用の視点から、現図書館を継続利用していきたいと考えております。

現図書館に残す機能としては、まずは閉架図書の保管。これによって新しい図書館の閉架書庫スペースの削減も図れるかなと考えております。あと、車での来館需要の高い低年齢のお子さんと保護者の方を対象とする機能。もちろん、先ほど申したとおり新図書館にも子どものスペースというものはあるんですが、こちらとの役割分担を整理した上で、子ども向けの機能を現図書館にも残していきたいと考えております。先ほど申し上げた自動車文庫の拠点も現図書館でございます。

こういった必要な面積を確保した上で現図書館の不要な部分を減築し、さらには空調等老朽化対策もした上で、現図書館の継続利用を図っていきたいというところでは。

最後になりますが、駐車場の考え方でございます。

平成30年の基本計画のときは、休日のピーク対応で車の台数を365台と想定しておりました。今回、スターアイランド跡地ということで駅直近になります。公共交通の利便性もよいということですので、自動車分担率を平成30年の65.7%から37.4%に見直しまして、ピーク時台数を216台といたしました。先日小牧へ視察に行っていただきましたが、同じ東海圏の一宮市も駅直近の図書館ということで、こちらのデータを参考に、37.4%とさせていただきました。

右が、この駐車場をどうしていくかというところでは。

近鉄グループと協議している中、新図書館、新しいところでの駐車場整備となりますと地下となりますので、コスト増というところもあります。隔地化することで中心市街地内の駐車場を確保してまいりたいというところでございます。

まず、くすの木パーキングを新図書館の駐車場として利用していきたい。くすの木パー

キングの収容台数は509台、平均駐車台数の最大が約350台ですので、くすの木パーキングの残りの150台を新図書館の分として使っていきたい。先ほどのピーク時台数216台からくすの木パーキングの150台を引いた66台を残りの中心市街地で確保していききたいところです。

既存駐車場の現況ですが、下の四角で囲ったところ、真ん中にスターアイランド跡地があります。ここを中心に200m範囲内の駐車場が現在28か所、564台止められる形になっています。その中で、先ほど申し上げたくすの木パーキングを除く施設併設の駐車場、近鉄パーキング、タイムズキング観光の駐車場のうち、割引対応が可能な駐車場ということで、チケット、管理人方式を取っているところが22か所、487台あります。さらに、そのうち10台以上の規模かつ稼働率が60%未満の駐車場が9か所303台、4割が利用可能とすると、121台の容量が中心市街地であります。

先ほど申し上げました、くすの木パーキングを除く66台に対して、既存駐車場で十分な容量を確保しておりますが、民間駐車場ということですので、今後、継続的に使用できる確証がないところもあります。

そこで、この四角の中の右上にあります諏訪公園駐車場が、都市計画された継続的に残る駐車場であります。現在、諏訪公園のリニューアルというのを中央通りの再編と併せて検討しておりますので、こちら、老朽化した駐車場の改修も併せて行うことで、新図書館のための駐車場としての利用も考えてまいりたいと思っております。動線とかも考えながら、管理しております諏訪西商店街と協議しながら、こちらの駐車場の利用ということも検討してまいりたいと思っております。

説明は以上でございます。

**○荒木政策推進部長** 説明、ありがとうございました。

新図書館の整備方針のうち、検討課題となっておりました自動車文庫の継続、駐車場等についての考え方をお示しさせていただくとともに、近鉄グループとの協議状況、今後の事業の進め方についてご説明させていただきました。

事務局からの資料説明も踏まえまして、新図書館に期待する効果ですとか、今後の検討に当たって配慮すべき視点など、ご意見をいただければと思います。

どなたからでも結構でございますが、ご発言をよろしく願います。

伊藤委員からお願いできますでしょうか。

**○伊藤委員** ご説明ありがとうございました。前回よりまた一歩進めていただいていると

いうことで、その様子を聞かせていただきました。

コンセプトについては、以前提案していただいているのを引き続いて、さらに進めていくということですが、私もこのコンセプトについては賛成といいますか、ぜひこれで進めていただけたらと思います。

ただ、やはりコンセプトをこう持っているということと市民ニーズというものが、行政が描いている部分と市民の方が望んでみえるニーズというのはうまくぴったりいくとは限らないので、市民ニーズをきっちり捉えて、そのハイブリッドといいますか、融合をよく考えて、満足度の高い図書館建設を目指していただけたらと思います。

先日、小牧市中央図書館にも行かせていただきました。ここも、やはりいろんな年代層を入れたワークショップであったり、いろんなものをやりながら図書館の設計を具体的にしていってということを知らせていただきました。手法はいろいろあると思うんですけども、四日市においても、やはり市民の利用あつての図書館ですので、その点よろしくおいできたらと思います。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

**○伊藤委員** 駐車場については、近くにあればいいにこしたことはないですが、状況もいろいろあると思いますので、このような形になっていくことは仕方がない部分もあると思います。

ただ、やっぱり利用者の立場でいえば、図書館を利用するのにできるだけ支障がないということになりますと、離れていても、バリアフリーも含めてその動線であるとか、建物だけじゃなくて、やはり図書館そのものへアクセスするところの整備。特に中心のところの再開発もあるので、一緒に進めていただくんだろうと思うんですけども、その点も考えていって、ちょっと使いにくいということになっていかないように。

この想定台数で済んでいくかどうかよくわかりませんが、これからの社会ですから、車で行かれる方も増えていく可能性があると思いますので、その点、総合的に駐車場利用をどうしていくことで図書館利用が進んでいくのかという視点でさらに検討して整備を進めていただけたらと思います。

新図書館ができたとしても、いろんな事情で来館が困難な方もいらっしゃると思いますので、自動車文庫のサービスはやはり維持すべき、継続すべきだと強く思います。そういう意味で、ぜひ今の図書館をうまく活用して、これの継続とよりよくということ、改めてやっていただければという思いです。

車を使った移動する図書館というのをうまく組み合わせることで新図書館への効果もあると思います。この2台でいくかどうかというのもあるとは思いますが、市民の方が身近に感じていただけて、それを窓口にして新図書館への関心であるとか興味というものも膨らんでいくのかなと思いました。

それと、今の図書館の利用のところが書いてありますが、新図書館の場所とか利用の仕方を考えると、やはり就学前のお子さんをお持ちの保護者の方であったり家族の方というのは多少行きにくい部分も出てこないかなと。そういう意味では、落ち着いて本を楽しんだりできるスペースがある、また、その図書もあるという意味で、今の図書館をうまく使うと、その辺が可能性としてかなり開けるのではないかと。今も子どもの部屋があったり、図書館の中で工夫はされていますけれども、さらにそのあたりを充実したものにしてくださいと、四日市の図書館としての可能性というんですか、キャパがよいものになっていく。

ただ、新図書館とのすみ分けみたいなものは非常に難しい部分もあるだろうなとは思っています。その点は今後の検討で詰めていただけたらなと思いました。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

図書館の中身とかを十分に検討した上で、ハードの改修とかの取り組んでいくことであるとか、駐車場へのアクセスも総合的に検討していくべきだという意見。自動車文庫については、新図書館との相乗効果という点とか、いろいろ多岐にわたってご意見いただきました。ありがとうございます。

それでは、豊田委員、よろしく願いいたします。

**○豊田委員** ご説明ありがとうございます。

今まで、滞在型の図書館というコンセプトでお伺いしていてもなかなかイメージがつかなかったのが、この間小牧市中央図書館を見せていただいて、こういう感じなんだなというのが非常に印象に残って。

四日市もああいう形で利用者が増えて、世代を超えて使えたり。図書館というと静かなイメージがあるけれども、そうじゃなくてということと、郷土資料を本当にしっかり見せるような工夫がなされていて、ああいうのは四日市も取り入れてほしいなと思って見せていただきました。

伊藤委員も言われましたけれども、案でも、現図書館に子どものところを残す機能の中に入れていただいているんですけれども、やっぱり小さいおさんは、少し体を動かした

りはだして歩いたりとかというところがあるので、お母さん方が気兼ねなく図書館へ子どもを連れて足を運べるという、新図書館とのすみ分けになるかとは思いますが、そういう部分をしっかりメンテナンスできるといいのではないかと。

駐車場も、新図書館が市街地なのでちょっと遠くなったりしますが、旧のところだと近くまで車で行って、子どもさんや荷物もあまり気にせず行けると、図書館へ行こうかなという気になれるかなというところがあるので、そういう優しい図書館を目指してほしいなというのがあります。

自動車文庫に関しましては、私も小さい頃、田舎に住んでいる都合でなかなか図書館へ来られないので、母と楽しく使った記憶があります。ぜひこれは、小回りが利くので、継続していただきたい。

新図書館と小中学校とのつながりというのは、ICTのネットワークももちろんそうですけれども、ひょっとしたらこういう自動車文庫というのも学校とのつながりの中で使っていけるのかなと考えたりする部分があるので、多機能なところで動いていただけるといいなとは思いました。

町なかなので、学生とかは利用しやすくなるのかなと。例えば、津のほうへ通っている人たちも、四日市で降りてすぐに図書館を利用できるという部分では非常にいいです。

電子図書になれば別ですけれども、図書を借りて重い本を持って駐車場、車でという距離を考えると、なるべく使い勝手のいいところをお考えいただいて、駐車場の整備をしていただくとありがたいかなと思います。お天気が悪いときとかに、駐車場まで傘を差して何冊か借りた本を持って動くというのは、大人でもちょっと大変だったりするので、そういうのをなるべく避けられるといいなと感じました。

取り留めのないところで申し訳ないですけれども、以上です。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

伊藤委員からもございましたが、新図書館の運営部分とかソフト部分につきましては、今後また、補正予算で予算を取りまして、教育委員会とタイアップしたような、教育委員会中心に、子ども向けの、新図書館との役割分担というようなところも含めまして検討していきたいと思っております。

それでは、続きまして数馬委員。

**○数馬委員** ご説明ありがとうございます。

伊藤委員と豊田委員からたくさんお話が出ているので、私は今後のことで。



最初の（３）今後の進め方のところに、関係部局で構成するプロジェクトチームの設置というのがありまして、これは、今まで新図書館の話が何度か会議に出ていたんですけども、恐らく私が期待していた項目だと思っております。ここがとても重要な役割を果たしてくるんじゃないかと思います。

例えば、自動車文庫に関して、それが新図書館のPRにもなるというか、双方でわかり合える、図書館のよさを市民に知っていただくのに役立つという話が先ほど出ましたけれども、全くそのとおりだと思います。

旧図書館の利用の仕方等も幾つか案は出ていると思うんですけども、先ほど来の子どもさんとお母さんの場づくりは、「四日市は優しい町だよ」のアドバルーンになる。あそこへ行けば、子どもをはいはいさせても大丈夫というような自由な場をつくれる。

図書館という、絵本がたくさんある優しいところになることも含めて、自動車文庫も旧の図書館も新しい図書館も、全体で四日市の図書館ということ、このプロジェクトチームで練っていただいて、出来上がると、益々すばらしい、わくわくどきどきする。「四日市へ来たら図書館に行け」という言葉が生まれるようになるんじゃないかと思います。

それと、1つだけ。自動車文庫が7mだから置くところが限られてきます。もう1つ小回りの利く小さい、ミニ自動車文庫というのができたら、冊数は少なくなると思うんですけども、もっと奥地まで行けるのではないかなと。もうちょっと小回りの利くものがあると、それも北と南に1つずつあると、北回りのミニ、南回りのミニと、市民サービスにつながっていくのではないかなと思います。

そういうことも含めて、このプロジェクトチームでこれからだぞという感じで図書館の構想を作り上げていっていただくと、とってもわくわくどきどきになると思います。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

プロジェクトチームにつきましても、きちっと組織立てて検討していくということで、その辺また、検討が進み次第ご報告させていただければと思います。

それでは、鈴木委員、よろしく申し上げます。

**○鈴木委員** ご説明ありがとうございました。

ゆとりのある空間を持って、人に出会えて交流できる図書館というコンセプトで、私も図書館を利用させてもらったことはあるんですけども、今までは何かと騒がしいところがあったり、静かなところはものすごく静かと、極端ではありました。やっぱり子どもたちも行きやすく、学生も行きやすい、一般の方も行きやすいというところがこれ

から必要になってくるのかなと思います。

小牧市中央図書館で見学させていただいたときも、1階部分は割と小さいお子さんとかお母さんたち、ご年配の方とか、たくさんの方が利用されていました。上へ行くに従って、静かではありましたが、夏休みなので学生さんが多く勉強されていたりとかいう形で、個々に分けていただいたスペースがありました。

グループワークとかができるようなところもちろんあったほうがいいとは思いますが、そのときは利用されていなかったので見ることができませんでした。

個人で行って静かに勉強できる。学生さんが大人になって、さらにまた利用が繋がっていくんじゃないかなと。図書館に行けば静かに読めるし、また勉強もできるしという形でつなげていただきたいと思います。

あと、やっぱり皆さんがおっしゃっていたように、子育て中のお母さん方は交流の場所がないんです。今の図書館が新図書館に替わった場合に、ボランティアさんのお話会とか読み聞かせとかに行かせていただいて、そこでまた一緒に、お母さん同士、子ども同士もお話ししたりとかできる交流の場というのはすごく大切だと思います。

小牧市はえほん図書館というのがまた別にありまして、そこは小さいお子さんたちが利用できるような場所ということでした。そちらは拝見できなかったんですけど、そういう場所があると、子どもたちが騒いでも気兼ねなく行ける。お母さんたちもちょっとリラックスして行ける場所というのは、中心街からちょっと外れますけれども、車で行ったりベビーカーで行っても、みんなが居心地よくできるような場所になるのが一番いいんじゃないかなと思います。

そういう方向で考えていただけると、子育てしやすい四日市と思っていただけるし、市外へ出ていっても、またこっちへ帰ってくる。やっぱり四日市は子育てしやすいなと思えるように、とにかく小さい子たちとかお母さんたち、お父さんたちも、一緒にできるようになるとすごくいいんじゃないかなと思っています。

自動車文庫も、大きいものはありますけれども、数馬委員がおっしゃったように、小さいものは、四日市の街中まではなかなか来られませんという小学校とか中学校とかいう場所へ行って見てもらうと、そこもうまくつながっていくんじゃないかなと感じました。

以上です。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

コンセプトの視点であるとか、子育て世代の交流の部分であるとか、自動車文庫につい

でのあり方や、小中との連携も含めてご意見いただきました。

教育長、よろしくお願いいたします。

**○廣瀬教育長** 前にも言いましたけれども、私は中学生の頃から図書館が大好きで、今度の図書館については大変期待したいところです。

図書館というのは、充実した人生を歩んでいくための基盤を育む、知の拠点みたいな形になってほしいなと思っています。委員さんも皆さん言われましたけれども、生涯学び続ける、いろんな世代に対応できるフロアをつくっていきたいと考えています。ライフステージにおいてニーズを満たせるようなものをつくっていきたいと思うのと、中央通り再編の中核として、ランドマークみたいな形をつくっていくわけですがけれども、近鉄四日市周辺の博物館、四日市公害と環境未来館、文化会館、現在の図書館の活用ということで子ども図書館。近鉄駅前が文化の薫りが漂う町になっていくと、子育てするなら四日市、教育するなら四日市の雰囲気が高まるんじゃないかなというので、大変期待したい。

そういった外側の整備がされれば、先ほど豊田委員もおっしゃいましたけれども、名古屋や津へ通う学生さんたちが途中で降りて活用していただくと、交流人口も増えたりするのかなと。

この図書館の整備をきっかけに、学校図書館との連携を一層進めて読書活動の推進。これは生きていく力のもとになる大事な基礎力となっていきますので、このあたり、学校との連携もうまくつくりながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

教育長からは、運営部分についても、心構えと申しましょるか、いろいろやっていただくということでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、市長から。

**○森市長** 今回、近鉄ホールディングスとの確認事項合意の目途が立ったというところで、こういった形で報告させていただきます。折衝はなかなか厳しかったんですけども、現場の職員も頑張ってもらって、何とか8月中に協定を締結できそうだというところです。

ただ、何回もこういう合意事項はありますので、これは完全確定ではないですけども、正式にこうやって合意するというのは初めてのことでございますので、大きな一歩であると思っております。

場所が決まらなると中身の議論に入っていけないので、ふわっとした状況が続いていたんですけども、一旦基本計画が終わって合意できて、基本設計に入っていくということ

で、コンセプトなんかはもう固まっている部分はあるんですけども、より詳細なところまで議論していけるような土壌が整ってきたので、様々なご意見をお伺いしながら、いいものにしていきたいと思っています。

図書館というのは、対象となる方がほとんど全員の市民、または市外の方も含めて、本当に多くの方が対象になりますので、多くの方のニーズをどういうふうに酌んでいくのかは、これからまた頑張っていきたいと思っております。

あわせて、中心市街地の再開発プロジェクトも進んでおりますので、本当にこの中心部が大きく変わっていく一つになろうと思っておりますし、駐車場の件も、諏訪公園駐車場のことを少し触れましたけれども、諏訪公園も今後リニューアルする予定です。かなりいい形になると思っていますので、200mぐらいあるんですけども、この距離を感じないような公園のリニューアルもしていきながら、体感的に近いように思ってもらえるものにしていきたいと思っております。

皆さん、小牧市の図書館へ行ってもらったんですね。

小牧はどんな図書館だったんですか。駅直結それとも単独ですか。

○荒木政策推進部長 直結ではないです。

○豊田委員 道挟んでですね。

○森市長 駅前ですか。

○豊田委員 駅前で。小牧駅が見えているところで、単独に建っていました。

○伊藤委員 商業施設も横にある。

○森市長 ええ感じのあれなんですね。

私は、一宮は行ったことがあるんですけども、小牧はまだないんです。また時間があつたら行ってみたいなどは思っています。

いろんなどころのいいところ取りしながら、四日市の図書館にできたらいいと思っています。これから私たちも一生懸命研究していきたいと思っておりますので、ぜひお気づきのご意見をよろしく願いいたします。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

### 3 幼児教育の充実と施設再編について

○荒木政策推進部長 続きまして、2点目の幼児教育の充実と施設再編について議論を進めてまいります。

本市では、幼稚園、保育園、認定こども園といった区分を超えた、質の高い幼児教育が行えるように、令和5年4月から幼児教育センターの設置を予定してございます。あわせて、公立幼稚園等の施設再編に係ります検討を進めてございます。

そこで、本日でございますが、幼児教育の充実と施設再編についてをテーマといたしまして、本市の新しい就学前教育の実現に向けてご議論いただければと思います。

早速でございますが、事務局より説明をお願いいたします。

**○渡部こども施設再編推進室室長** こども未来部こども施設再編推進室の渡部でございます。

右肩「資料2」をご覧ください。こちらで説明させていただきます。

先ほどご案内がありましたように、今現在、令和5年4月に（仮称）四日市市幼児教育センターの設置を目指しております。それを機に、全市的な幼児教育の充実に向けた具体的な取組の推進、2040年を見通した就学前教育・保育施設の再編について、現在両面から検討を進めておるところでございます。

1つ目の幼児教育・保育を取り巻く現状と課題につきまして、大きく5点認識しております。

現状、特に③の公立幼稚園の定員割れと小規模化の進行が、非常にスピード速く進んでおります。④の施設の老朽化は、四日市市は高度成長期に整備させていただいた園が多くございまして、全体の8割が築40年を超える中で、これから小規模化も相まって進む中でどうしていこうということでございます。

こうした課題に対応いたしまして、持続可能な子育て環境を構築していくためには、将来的に保育園、幼稚園、こども園を一本化いたしまして、就学前教育・保育の充実。それから、共働き子育て世帯のニーズに対応できるこども園づくりを進めていきたい。その上で、少子化の流れを踏まえ、需給を見通し、地域バランスも考慮いたしまして、園舎の耐用年数を踏まえた上で、効果的・効率的な配置計画を定めていきたいと考えておるところでございます。

2番の方向性とか基本方針につきましては、目指す方向性を3点挙げてございます。

1つ目が、生涯にわたる「生きる力」「共に生きる力」の基礎を培う就学前教育・保育の質の確保を大事にしていきたいということ。2つ目が、すべての子どもが安心して快適に利用できる施設の整備。3点目が、市立施設の役割の明確化とその役割を果たすための体制の構築に努めてまいりたいと考えてございます。

その下、基本方針でございます。

1点目が、公立の幼稚園・保育園につきましては、2040年を見通した配置計画を策定いたしまして、この計画に基づきまして、段階的に全園を認定こども園に移行してまいりたいと考えてございます。あわせて、幼児教育センターを基盤にいたしまして、就学前教育・保育の質の向上に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

再編のイメージは下に図示したとおりでございます。幼児教育センターがこれから非常に重要な役割を果たしていくと考えておるところであります。

右の3点目でございますけれども、こども園において充実した幼児教育を受けられる仕組みづくりということで、先ほど、幼児教育センターがこども園を支援していくことによって幼児教育の充実を図ってまいりたいということでございますが、その具体的な取組について、①から④に記載の4項目の検討を進めてございます。

それぞれ資料をつけてございます。詳細は後ほど説明いたしますが、①の幼児教育共通カリキュラムの作成、②で幼児教育センターの設置、③として現場での話になりますけれども、体験型教育活動の充実、最後、4点目がインクルーシブ教育の充実でございます。

資料をめくっていただきまして、1ページをご覧ください。こちらは幼児教育共通カリキュラムの全体像についてお示しした資料でございます。

昨今、テストではかることができない非認知能力を身につけることが大変重要と言われておりまして、国でも、幼稚園教育要領等で幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を示す中で、非認知能力の重要性を言及しておられます。

私ども検討する中では、こども未来部、教育委員会でチームを組みまして、三重大学教育学部の教授のアドバイスを受けながら、こうした検討を現在進めてございます。

このカリキュラムの全体像につきましては、この資料の頭にあります黄色の部分、「遊び体験が子どもたちの未来をつくる」、そしてブルーの「非認知能力の育成」ということで、幼児期に遊びや体験の中で子どもたちがしっかりと非認知能力を身につけていただくことが重要と考えております。

それらを含めまして、下の矢印に飛んでいただきますと、「0歳から6歳までの発達や学びが小学校以降の生活や学習の基盤となります」という方針をしっかりと認識した上で、子どもたちを育てていきたいと考えてございます。

次のページをお願いいたします。こちらは、0歳から小学校に上がる6歳に至るまで、各年齢ごとに子どもたちに育みたい力を示した資料となっておりまして、小学校の手前

に書いてあるオレンジの欄が、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿でございます。幼稚園、保育園、こども園、さらにいえば、公立・私立も含めてこの姿を目指していこうということになっております。

その際、各年齢ごとに子どもたちに何が必要か、あるいは保育者、大人たちはどのような関わりをしていけばいいのか。将来を担う人を育てる上での幼児教育の役割、その重要性を、専門的知見を活用しながら、わかりやすくまとめていきたいということで検討を進めておるところでございます。

3ページをお願いいたします。

幼児教育センターができましたら、先ほど申しましたカリキュラムに基づきまして、研修ですとか、訪問・相談支援、情報発信・研究というところ、右側にそれぞれ色分けして示しておりますけれども、そういった機能をセンターが果たしていきたいと考えております。

前後しますが、この資料の1番で保育者アンケートをお示ししてございます。これは、現在公立・私立で働く園長先生からクラス担任、若手の先生に至るまで、それぞれスマホからアンケートに答えていただく形式で進めておりまして、7月20日時点で回答数602名でございました。

この中でポイントだけ申しますと、①で、実際、質の向上に直結する研修が受けられていないという現状が見ていただけるかなと思います。1年間で受けた研修の回数が0回から2回ということで、非常に少ない状況があると。それから、こうした状況を受けて、③でオンラインを活用した研修を希望されるというのが非常に多くなってございます。

こうしたことから、幼児教育センターにおきましては、集合型研修ができれば一番いいんですけれども、その様子をオンラインでライブ配信したり、あるいは録画しておいて一定期間後に好きな時間帯に見られる仕組みをつくって、研修の機会を担保できるようにしていきたいなということがございます。

また、ワーキングですとか、議会からもご意見を頂戴したんですけれども、先生方がいろんな悩みを抱えておられるということがございます。右下の施設配置図を見ていただきますと、破線で囲ってある左側に、ちょっと縦長ですけれども「相談室」というのを設けていきたいなと考えております。現場で働く保育士の皆さん、幼稚園教諭、それぞれお悩み等あると思いますので、こちらで対応できるようにしていきたいなと考えてございます。

また、このセンターでは、アウトリーチ型の支援を進めていきたいと考えております。

待ちの姿勢にとどまらない、積極的な支援を行っていきたいと考えておるところでございます。

資料最後、4ページをお願いいたします。

幼児教育センターの支援に合わせまして、各園ではこういった活動をしていけばいいのだろうかということで、こちらも検討を進めておりまして、体験型教育活動の充実を図っていきたいということで検討を進めてございます。

左下に6項目、写真でお示ししております。これらはいずれも、地域の方のご協力あるいは学びの一体化の絡みで、小学校あるいは中学校の先生のご支援のもとで実施してきた実践例でございます。

しかし、いずれもそういった人材がいらっしゃったときに上手にマッチングできたり、またもう1つ言えば、ボランティアベース、無償でのご協力が前提となっておりますので、取組としては継続的なものにできていないのが現状でございます。こうした取組を行うことができれば、子どもたちの一生懸命学ぼうとする姿勢、目を輝かせながら非常にいい体験ができたということで、深い学びにもつながっておりますので、こうした機会をぜひ充実していきたいと考えてございます。

また、こども園におきましては、保育認定、いわゆる朝早くから夕方までお預かりするお子さんと、教育認定、右側のブルーの時間帯、9時から2時半までお預かりするお子さんが混在しているわけですけれども、どのお子さんにもしっかりと教育を受けていただけるように、この時間帯を活用しまして取組を進めていければということで検討を進めておるところであります。

資料は以上でございまして、もう一度1枚目に戻っていただきまして、最後でございます4点目、インクルーシブ教育の充実につきましては、資料はございませんけれども、やはり公立の役割として、特別な配慮を必要といたします子どもへの適切な指導や支援の充実を図ってまいりたいと思っております。こども園の一部につきましては推進園に指定し、優先受入枠を一定数確保するなど、取組の充実を図ってまいりたい。加えて、そこで得られた成果等々を私立園にも展開していきたいということで検討を進めておるところでございます。

雑駁でございますが、説明は以上でございます。

**○荒木政策推進部長** 説明ありがとうございました。

将来的にこども園化を進めましてこども園が主流となっていく中で、幼児教育センター



の基盤として、就学前教育に力を入れていきたいという意気込みでございます。その上で、本市の就学前教育・保育の質をどのように向上させていくか。幾つか具体的な方向性も示されたと思いますので、就学前教育への期待や取組の検討に当たって配慮すべき視点など、ご意見いただければと思います。

伊藤委員からよろしく申し上げます。

**○伊藤委員** 幼児教育センターがこれから整備されることで、就学前教育・保育が四日市としてさらに充実する構想であるということで、期待するところです。

幾らか質問めいたこともあるんですけども、今言いました就学前教育・保育の充実と共働き子ども世帯のニーズに対応できると。これは、教育・保育の充実以外に、子育て世帯のニーズでどんなものがあるか、こうやって並列とか書かれているのかなと。

私は、保護者の方は保育というものをベースとして、充実とか、保障されながら教育面をしっかりしてほしいというニーズが一番強いのではないかなと。これは最近思うのではなくて、かなり前からそういうふうに思っています。そういう意味で、教育の面もきちっと取り組んでいくことは必須であろうと思っています。

そのあたり、何かつかんでみることがありましたら、教えていただけたらと思います。

**○荒木政策推進部長** どうですかね。よろしく申し上げます。

**○渡部こども施設再編推進室室長** 伊藤委員おっしゃっていただきましたように、少子化の流れに伴って、子どもをしっかり、大事に育てていきたいという意向は社会全体で広がっていると私どもも認識しております。

その上で、保育園にいたしましても、長時間お預かりする中で、教育というと各年代によっても異なるんですけども、例えば友達との付き合い方とか、就学前の5歳の子でしたら学校へ上がる直前に必要なこととかもやっぱり親御さんとしての期待はあるように聞いておりますので、先ほど説明の中でありましたように、各年齢ごとの必要な育ちというのをしっかりカリキュラム化して、それをセンターがしっかり研修して、それぞれの園で実践できるようにというつながりを進めていきたいと考えておりました。

また、小中学校でも一般的に行われておりますが、保育園でいきますと園内の研修を開型にして、いろんな視点から意見を頂戴して、それをブラッシュアップしていこうと。こんなことを充実する中で、保護者のご期待にも応えていきたいと考えておるところでございます。

**○伊藤委員** ありがとうございます。

さらに感じた部分で言いますと、非認知能力というのを大きく取り上げられている。今の第4次の学校教育ビジョンでもそうですけれども、この点が資料1と資料2で非常に詳しく書かれていますが、非認知能力というのがいかに大事であって、だからこそこれに力を入れるんだということが、これを見られた市民、保護者の方にわかりやすいのかなと。難しい部分はあるんですけども、自分としてはさらにわかりやすくできたらなと思ひまして。

と言いますのは、目指す10の姿がありますけれども、非認知能力に関係するのは、この中の、例えば自立心とか協同性とか、社会生活との関わりとかいった、3つ4つぐらいだと思ひんです。その中の幾つかは特に関係していますよという位置づけをされている人もいるし、場合によっては、小中学校の学習指導要領で大事にしていくものとして、知識・技能と思考力、判断力、表現力という固まりが2つ目にある。そして、学びに向かう力とか人間性というものが3つ目に出てくるんですけども、非認知能力に直結するのはこの3つ目であると。だから、この3つを育てて初めて共に生きる力が育つんだから、この部分はどうしても必要だということで、小学校に続いていくという意味で、このことが本当にベースになるんです。しかも、幼児期にこのことを育てるとというのが一番大切だということで、それを強調していくというか、幼児期こそそれをやっていく必要があるということも強調していてもいいのかなと。

具体的に、こうしたらいいというモデルを示せるわけではないですけども、よく考えられて資料をつくられているのはよくわかるんですけども、わかりやすさという意味で、ちょっと意見を述べさせていただきました。

それと、幼児教育センターでアウトリーチ型の取組をされるというのは、今、園は多忙でもあって、研修に出てくるとか、そういう場にどうこうというのは難しい部分がある。その中でも、やっぱり研修は大事であるという位置づけの中でこれをされるというのは、本当に一歩進んだ形の研修のあり方としてぜひ進めてほしいなと思ひます。

ただ、これには、研修の材料というか資源をきっちり持っていることと人材を持っていることがどうしても必要になってくる。今まで蓄積されたことはいろいろあると思ひんですが、人材面でそのあたりはうまく回せるのかなと。アウトリーチでも、やっぱり形がいいというより、人材の部分で頼る部分が多いと思ひますので、今後そういった整備もあるんでしょうけれども、そのあたり、考えられていることがありましたら、教えていただけたらと思ひます。

**○荒木政策推進部長** お願いします。

**○渡部こども施設再編推進室室長** 大きく2点頂戴したかと思えます。

まず、カリキュラムです。市民、保護者にわかりやすくというところは、今、基本的な概念を整理しておりますが、保護者の方向けのリーフレットなんかを行く行く作成していきたいと考えてございまして。頂戴いたしましたご意見を参考にして、わかりやすく伝えていくようなデザインとか手法、伝え方、そのあたりに留意してつくってきたいなと考えてございます。

2つ目の、幼児教育センターのアドバイザーにどのような人が必要かということは、私どもも今検討しております。やはり経験豊富な現場に詳しい方、理論に明るい学識経験者の方も必要でしょうし、専門的なところで、例えば特別支援のスペシャリストというように、園側のニーズによって、活用というか、期待されるアドバイザーも異なってくると思うんです。それぞれ、内部から人材を登用する形と、外部人材の方をお願いして専門性に特化した方を想定するんですけども、お願いしていくことと、いろいろ園のニーズを酌み取りながら進めていきたいと思っております。秋頃から、お願いしていく人材を掘り下げて検討を進めていきたいということで考えております。

いただいた意見をしっかりと受け止めながら進めていきたいと考えてございます。

**○荒木政策推進部長** よろしいでしょうか。

続きまして、豊田委員、よろしく申し上げます。

**○豊田委員** この教育が進んでいくと非常に楽しみだなというのが一番で、それを支える幼児教育センターというのにすごく期待をしています。

先ほどちょっと話題になりましたアウトリーチ型の支援について。

やはり現場は人的に余裕があるわけではございません。それから、置かれた環境によって抱える問題等も違っていると、やっぱりその現場へ行って、そこに合った支援を受けられるというのは非常に楽しみというか、大事なことかなと考えております。

アンケートをしていただいた結果も示していただいておりますけれども、若い先生方というのは、いろいろ問題を抱えていても、即実践の力としてやらなきゃいけないというところで、本当に苦しいんじゃないかなということが想像されますので、そういう方々が長く働いて、いいケアが提供できるような形が続いていくために、センターが請け負っていただけるように仕組みをつくっていただきたい。今つくっていただいておりますけれども、そういうふう to 実際のところで動いていただきたいなと思っております。

配慮の要る子どもたちや、配慮が要る子どもたちを抱えるご家庭というのも、いろいろな楽しみもあるけれども、ご苦勞もあつたり気疲れする部分がございますので、やはりそういうこともしっかりと受け皿となって進めていただければと思いますし、その子どもたちが、普通の子という言葉がいいのかどうかわかりませんが、社会の一員としてやっていく中での、双方のつながりということもつなげていただければと感じます。

1点、共働き子育て世帯という言葉は、基本、ご両親がいるという前提の言葉ですよ。でも、世の中にはそうじゃない方もいらっしゃると思うので。そこにこだわるかどうかは別ですけども、そこに前提があるんだなという形で個人的には聞かせていただきました。

母子はもともと、経済的な基盤のことから歴史的にも手当がついてきている。父子は、今、手は入り出していますけれども、大変なところもあるんだというのが現実でございますし。

やっぱり単親家庭のおうちというところは働きながらの子育てで、十分に教育もしたいというニーズを満たす一番のところかなと思ったりもしますので、この表現が気にはなりません。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

資料のわかりやすさを見直していただくとともに、こちらの表現についても一度調べていただいて。よろしくお願いします。

**○伊藤こども未来部長** そうですね。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

数馬委員、よろしくお願いします。

**○数馬委員** 話がかぶりますので、とても気になったことを。言葉にしますとちょっと乱暴ですが、今後はこども園になっていくということで、公立でこういう形を取れるようにようやくなったんだなと。

子どもの人数的なこともあるかと思いますが、私立の幼稚園に2歳、——2歳は就園前というのがあるんですけども、2歳ぐらいから預けている親御さんが実際に多いわけです。

公立ですと、迎えに行かなきゃいけないとかいうことも含めて働けない、誰かが見ていなければいけない。それと年数が1年であるということが、私の世代のときにはネックだったんです。働いているので、どうしても迎えに来てくれて送ってきてくれて、4歳から

でも見ていただくというか、友達と遊べるということも含めて、公立に行かせたいけれども行かせられないということがあったので、こども園になるということがとってもいいなと。子どもを育てている親とか保護者のニーズに応えられるようになるなと思って、とてもうれしく見させていただきました。

以上です。

**○荒木政策推進部長** よろしいでしょうか。

鈴木委員、よろしくお願いします。

**○鈴木委員** 私も、幼稚園と保育園が合体してこども園になるというので、最初はえっと思ったんですけども、一緒になることによって、保護者が子どもを預ける時間が延びるということもあります。少しの時間で働きたいという方もいらっしゃるし、長い時間働かなきゃいけないという方もいらっしゃると思うので、公立がそういうふうになると、保護者のニーズもすごく高まってくるかなと思います。

こども園についてもそうですけれども、保育士の先生方ですね。今の段階ではまだ別々の教育という形でなされていると思うんです。どっちもいいところを併せ持って、今まで保育だけしていたところに教育も入ってくるとか。

保育園と幼稚園だと、小学校に入るとどうしても差が出てくるんですね。子どもさんによっては、字が書けたり読めたりとかするお子さんもいらっしゃるんですけども、保育園だとそこまで教えるということがあまりなかった。自分の子どももそういう感じで、長男は書けても、次男は書いたり読んだりできなかったというのに気がついて。

そういうこともありますので、いいところを持ち合わせて教育と保育をしていただくということは、保護者にとっても、一律、みんな一緒になっていくんだなということですから助かると思います。

あと、保育者のアンケートで、若い世代の先生方がなかなか研修とかができない。やることもたくさんあると思うんですけども、やっぱり若い先生が来てくれたからこそ長く続けていけるということで、そこを、幼児教育センターができることでうまく研修とか、その時間をつくってもらうようにしていただけると、保育に関わる先生方も余裕を持って子どもたちに接することができるんじゃないかなと思います。そういうところを見直して進めていただけると、先生方の気持ちが楽になっていくと思いますので、よろしくお願いいたしますなと感じました。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

こども園に対する期待であるとか、研修をきっちりしてほしいといった意見をいただきました。ありがとうございます。

教育長、よろしくをお願いします。

**○廣瀬教育長** 幼児教育の充実と施設再編についてというところで、基本方針として全園を認定こども園に移行というのは、公立幼稚園が小規模化している中で、一定の集団規模の確保は教育に重要だろうなと思っています。

将来的には学校も考えていかなあかんところではありますけれども、歴史ある四日市の幼稚園教育のノウハウがこども園で生きるような形で進めていただければと思います。その鍵になるのが幼児教育センターじゃないのかなと思っています。

保育士さんはこれまで、研修の機会がなかなかなかったと思われるんですけども、その中でもすばらしい実践を持っている方がたくさんいらっしゃる。ベテランのノウハウを体系づけて、これまでの幼稚園教育の実践と保育士さんの技が体系づけられて、それがアウトリーチで、公私問わず、保幼問わず、こども園問わず、それぞれの課題に対してアプローチできる形になると、とてもすばらしいのかなと思います。

そんな中で子どもたちの非認知能力が育成されたり、遊びの中で数や文字や、いろんな学習につながるような学びができれば、小学校はかなり楽になると思いますので、大変ありがたいと思っています。

ぜひ教育委員会と連携しながら、小1のつなぎについてしっかりと図れるように、ワーキンググループでも関わらせていただきたいなと思っています。

図書館とも関係するんですけども、自動車文庫もそうですし、現図書館の利用で子ども図書館といったところと、幼稚園、こども園、保育園とも連携していけたらいいなと思っていますし、あわせて、学童とか子育て支援センターとかと連携が取れると、読書に親しむ環境が子育てには重要になってくると思いますので、ぜひそういったところにも、新図書館もアウトリーチでかけていきたいなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

幼児教育センターに対する期待とか、小学校との連携、さらには図書館との連携も含めてご意見いただきました。ありがとうございます。

最後になりましたが、市長、よろしくをお願いします。

**○森市長** 資料にもありますように、少子化、そして保育需要の高まりといった時代背景

があって、世の中が急激に変わってきています。結果的に公立幼稚園の定員割れが続いていくという状況で、現場はどうしていくんだというところから議論が始まって、現場の再編と併せて、幼児教育の充実を図っていこうという流れになっています。

結果として、現場は大変苦勞している状況ですけれども、ただ、幼児教育の充実というところに焦点が当たったというのは、一つの大きな功績かなと思います。

現場に入り込んでの様々な調査とか、現場の実態を把握する機会はそれほど多くはなかったんですけれども、資料にもありますように、保育者へのアンケートを実施して具体的な課題が見えてきたということも大きな成果であると思います。

こういった部分、質を高めていくということも併せて実施していきながら、2年前から始まりました新教育プログラムも、就学前からパッケージで「教育するなら四日市」ということをうたっておりますので、最初のきっかけである就学前教育・保育の部分を何とかしっかりとしたものにしていきながら、これをもとに、施設再編も皆さんが納得いけるように持っていきたいなと思っています。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

本市の新しい幼児教育の実現に向けて貴重な意見をいただいたかと思います。

本日の意見を考慮いたしまして、事務局で整理の上、取組を推進していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### 4 その他

**○荒木政策推進部長** 事項書の4番の、その他の項目に移りたいと思います。

その他で何かございますでしょうか。

**○森市長** これは私の心配事というか、個人的な心配事ではあるんですけれども。

新型コロナで教育現場が非常に厳しい中、現場の先生方、教育委員会の皆さん、本当に一生懸命頑張ってもらっていて何とか教育活動が回っていると、できる限りのことはしてもらっていると思うんですけれども、今、第7波で感染拡大が厳しい状況というのはちょっと置いておいて、2年半ぐらいこういう生活が続いてきていて、子どもたちにどういった影響を与えているのかがすごく気になるところです。

ちょっと各論に入っていくんですけれども、感染防止のためにマスクをしなきゃいけない。これは基本的なところです。ただ、マスクを外していい局面というのが、国の見解も含めてだんだん増えてきている。そういう局面でどういうふうにマスクの対応なんかがさ

れているのかなと。

実は、昨日いろんな人としゃべる機会があって。子どもはマスクをしたままずっと接しているわけで、果たして友達の顔とかわかっているのかなみたいな話もあったわけです。

帰って子どもにしゃべっていて、次男は小学生なので、コロナ前の友達と一緒になので大体わかるんですけども、長男はコロナ禍で中学校に入って中2です。2つの小学校が合わさりますので、自分と同じ小学校の仲間は顔がわかるけれども、もう一方の小学校の友達が、同じクラスでも顔がわからない子もおるという話をしたんです。これはちょっと寂しいなと思って、何かこう、みんなの顔が見える取組ができないかなみたいな。例えばオンライン同士で顔を見るとか。それは一つの例ですけども、そういうことをちょっと思っています。

あと、これは教育現場でどういうふうに思われているのかわからないですけども、前にどこかのドキュメンタリーを見ていたら、感染防止よりも、恥ずかしいからマスクを外さないという子どもも結構多くなってきていると。

一生つけたままで生活していくならいいですけども、外すような社会になって、人前でしゃべるような機会があったときに、果たしてちゃんと、恥ずかしがらずにしゃべられるか。経験を積んでいけばいいのかもしれないけれども、思春期で、そういう発育期のところもあるので、これはどういうふうになってくるかなという思いもあって。

感染防止を置いておいて、無理やり外せとは言わないですけども、何かそういう機会があったほうがいいんじゃないかというのは、ぼやっと思っているんです。現場は大変だと思うので、今日、せっかくの機会なのでお話ししたかったなということ。

明日あさって、3年ぶりということで大日市まつりをやりますけれども、実際、今日なんかも幾つもの団体が、感染者が出たとかいって辞退の団体が続出して、正直、出るどころが結構減ってきているのは確かです。ただ、現場に言っているのは、これはやらなアカんと。まずやり切るのが今回の目的だとは言ったんです。どういう困難があろうと、頑張って2日間やり切ろうというのは言いました。

これも、どちらかという子どもたちに祭りを体験してほしいというか、祭りを知らずして大人になっていくというのもやっぱり寂しいので、そういう機会を与えてあげたいなというのもあって、何とかやり切りたいなと思っているんです。

コロナ対応で手いっぱいな部分はあるんですけども、一方で、そういうところも危惧されているので、何とかうまいことというか。教育現場で具体的な話ができないので、何



かそういうところも工夫してやってもらえたらな。

マスクの顔しか知らない同級生と10年後会ったときにどんなふうになるのかなど。認識できるのかなみたいなどころもあります。そういうところはちょっと気になっているので、また何かあったら聞かせてもらいたい。別になくても、そういうことを考えてやってもらったらなとは思いますが。

**○荒木政策推進部長** 教育長、その辺、現場の立場からどうですかね。現状と考え方というか。

**○廣瀬教育長** 確かに、顔が見える関係というのはなかなか難しいのが現状です。

僕らも、オンラインで会議をするときに、1人のときはマスクを外すと。自分が写っているモニターを見て、自分の顔ってマスクしているイメージしかなかったので、改めてそうですし、たまに違う教育長さんの顔を見ると、こんな顔だったんだとわかるというのは必要だなと思います。

オンライン授業でやっているときなんかは、みんなビューで、ばーっと子どもの顔が出てくる。

そのときに1人なので外していると、あの子あんな顔だったんだというリアクションは確かにあったようです。そんな機会はやっぱり必要かなと思います。

あと、今マスクの着用で指導しているのは、熱中症との関係です。熱中症の予防のために、登下校やら運動時は外すという形で推奨しておるんですけども、やっぱり感染状況がひどくなってくると、心配で外せない。

市長ご心配のように、特に思春期の子どもたちについては、これが顔の一部になっていくという状況は昔からあって、マスクがないと不安だという子は昔からいました。そのあたりは、自己実現というか、自尊心とかいったことを高めることで自信を持っていけるような指導は、教育相談等でしていく必要があるのかなと思っています。

卒業式にはみんなマスクを外させて写真を撮ろうぜみたいなこともあったので、そこへまた戻りつつあるのかなという懸念はしています。

あと、小さいお子さんたちが表情を読み取れるのかというか、小さい子はマスクをしていないけれども、保育者とか幼稚園の先生はマスクをせざるを得ないので、その影響とか、いろいろな心配がありますので、そのあたり、アフターコロナのときにどうやって回復していくか。

市長ご心配の、子どもの育ちにどう影響しているのか。もう少しすると問題点が出てく

のかな。それに対して、私たちは情報を集めて考えていく必要があるのかなと思っています。

**○森市長** うちの妻は結構楽観的で、そんなん、子どもだから、取り出したら一気にいくよみたいな、戻るよとか言ってはいるんですけども。

性別もあって、思春期の女性というのは恥ずかしがる人が多いんですかね、わからないですけども。そういうのもあるから、別にいいんじゃないのという意見もあって、いろいろ家族でしゃべっておったんです。息子なんかは、「取りたいか」と聞くと「取りたい」と。ただ、「みんなが取ったら取る」と。誰が取るんやろうみたいな。

登下校のときとかは外していたり、体育のときも外しています。クラブ活動なんかも外しているので、そういうところではいいのかなとは思ったんですけどね。

それは今すぐ解決することじゃないですけども、心配事として。

**○荒木政策推進部長** 教育長言われたように熱中症も心配ですし、その辺もありますよね。

**○廣瀬教育長** 今は第7波で感染が広がっているんですが、6月頃から徐々に、熱中症の予防も含めてマスクを外す機会は増えてきたので、顔の認識のチャンスは以前よりは増えていくのかな。第7波が終わって、9月、運動会とか体育祭とか、文化祭で合唱とかいうときに外す機会が、チャンスがあれば、また状況は回復するのかなと思っていますけれども、読めません。

**○荒木政策推進部長** よろしいでしょうかね。

**○森市長** はい。そういう課題があるというか、認識があるということで。

**○荒木政策推進部長** そうですね。

マスクの問題について、マスク依存とかいう報道もございますので、教育委員会としても何らかの格好で検討していただければと思います。

そのほか、その他項目でございますが、何かございましたら。

どうぞ。

**○鈴木委員** 市長がおっしゃったマスクの心配というのは、保護者としてもあります。

教育長が言われた、オンラインで子どもたちがマスクを取ってというお話もありましたけれども、娘のオンライン授業のときに見ていたら、自分の娘はかけていました。中3はオンラインはないですけども、中2のときは家の中でもマスクをしている。する必要はないと言っているんですけども、してオンライン授業を受けていた。「何で」と言ったら、やっぱり自分の顔が写るのが嫌だと。中学生なので、そういうふう気にする。ほかの子

も、半分とは言いませんが、外さずに、そのまましていましたね。

やっぱりそれは保護者としてもすごく心配です。今、暑くなってきてマスクを外すように言っていますので、登下校とかは外していますが、あとはどうしてもしています。

子どもに外しなさいと言っても、外さないです。この間、子ども会でラジオ体操をしたんです。広い駐車場だから、「距離を取って、マスクを取ってラジオ体操しましょうね」というお話をしたんですが、それでも、半分は取りませんでした。別に大声を出すわけでもないし、距離があるから大丈夫ですよと言ったんです。ラジオ体操も第2までやっていたので、大分やっていたんですけども、「運動なので、取ってやりましょう」と言ったんですけども、聞かないですね。したまんま。そのときちょっとショックで。

私は外してやったんですけども、大人が外して大丈夫なんだよと言えるようにしていかないと。学校の先生も、話をしたり授業をしたりするので外すわけにはいかないとおっしゃっていますけれども、授業中は換気をして、その中で先生が外して、みんなも、しゃべらないんだったら外して先生の話を聞きなさいというふうに言わないと、子どもたちは外していかないと思うんです。これはやっぱり大人の責任だと思うので、そのところはもっとちゃんと見ていかないといけないかなと。

もちろん、外しなさいと言って、ぱっと外せる子もたくさんいると思います。子どもたちは同調圧力を感じていると思うんです。やっぱりこの場面で外してそのまま歩いていくとかその場にいるとかいうことがなかなかできない。

次男が名古屋に通っているんですけども、名古屋だと、感染拡大しているということもありまして、マスクを取って歩けと言われても取れないと言っていました。

今は感染が確かに拡大しているから、マスクを外して歩きなさいとは言えないですけども、落ち着いてきたり、あと、今の感染状況であっても、感染している人がマスクしているのは有効的であると思うんですけども、空気感染のときにマスクは役に立たないと言われていたので、隙間から入ってきたりとかしますので、そのところをもっと正しく、保護者も先生も、大人がきちんと把握した上で指導してあげないと、子どもたちは外せないと思うんです。

今は夏休みですけども、登下校のときに暑いから外しなさいと言っても、ほとんどの子がしています。学校で子どもたちはマスクをして鬼ごっこをしているんです。そういう状況を見ると、市長が心配されていることは本当に私たち大人の責任だなと思います。

状況にもよりますけれども、きちんと説明して、保護者にも理解していただいた上で、

外せる子は外していいよと。学校現場は換気をする、クーラーとかをかけていてももちろん隙間も開けていますし、ちゃんとしていますけれども、扇風機もかけて流れるようにするとか、あと、手洗いとうがいもきっちりとするということで感染対策をすれば、だんだんと収束していくんじゃないかなと。

これは勝手に私が思っていることですがけれども、そういうふうにしていかないと、外せる子と外せない子がいると思いますので、大人が頑張って言っていけないといけないかなと感じました。

すみません。ありがとうございます。

**○荒木政策推進部長** ありがとうございます。

鈴木委員からも、マスク依存というご意見をいただきました。ありがとうございます。

また、教育現場でも検討できる部分を進めていただければと思います。

少し時間をオーバーしましたが、本日はこれで会議を終了させていただきたいと思いません。

次回については、秋以降の開催を予定してございます。

本日は、お忙しい中どうもありがとうございました。